

宇和島市 御中

三間地区公共交通リ・デザイン調査 ご報告書

■調査概要



住民アンケート

N=367件



現地ヒアリング等

N=246件

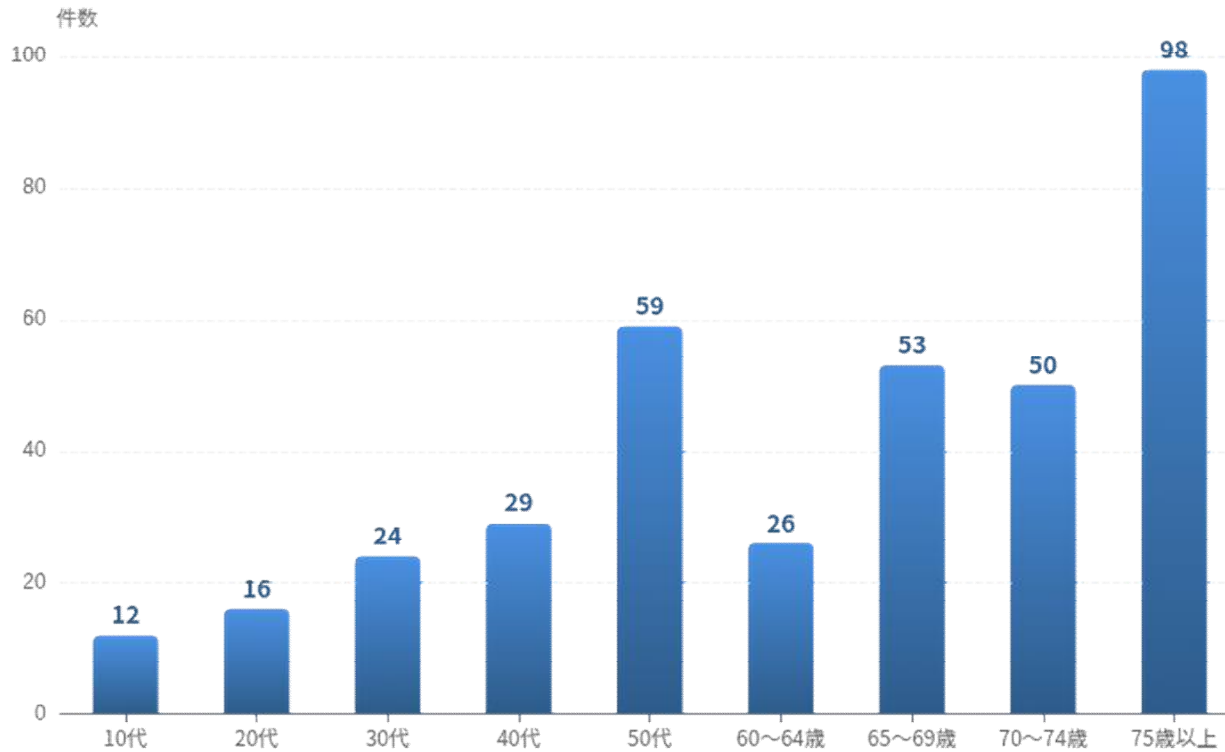
※住民アンケート全体件数1,914件うち240件は郵便番号未記入や回答内容の不備・分析不可な状態

2026年4月3日

回答者の傾向

三間地区 住民アンケート結果 (N=367)

年代別回答数分布 (件)



分析対象件数

367件

回答構成のポイント

75歳以上が98件と最も多く、全体の約27%を占める。高齢層の回答比率が高い傾向。

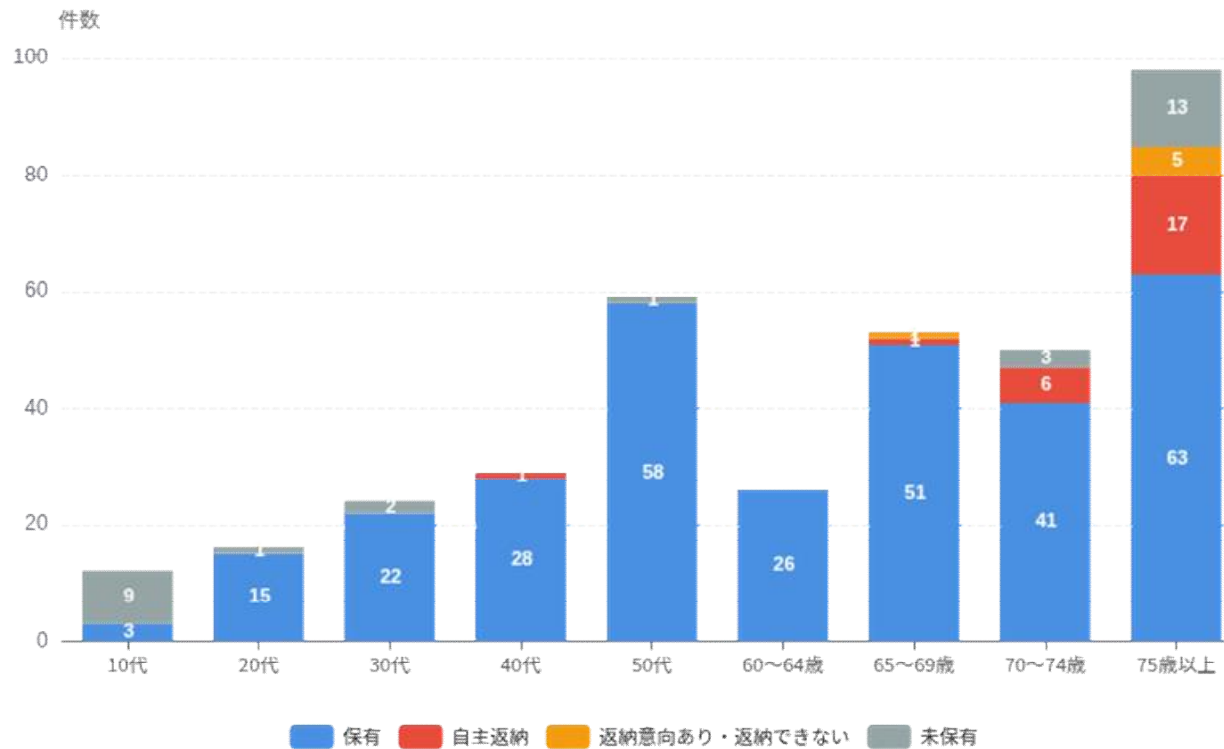
50代 (59件) の回答も比較的多く、次いで65~69歳 (53件)、70~74歳 (50件) と続く。

65歳以上の合計は**201件**で、全体の約55%を占めており、宇和島地区 (約48%) と比較しても高齢化率が顕著に高い回答構成となっている。

年代別_運転免許保有状況

三間地区 住民アンケート結果 (N=367)

年代別運転免許保有状況 (件)



🚗 75歳以上の免許自主返納状況

自主返納者 **17** 件 (回答の約17%)

免許保有の傾向

75歳以上では、17件が自主返納済みで、5件が返納意向を持ちながらも移動手段確保の問題で返納できていない。

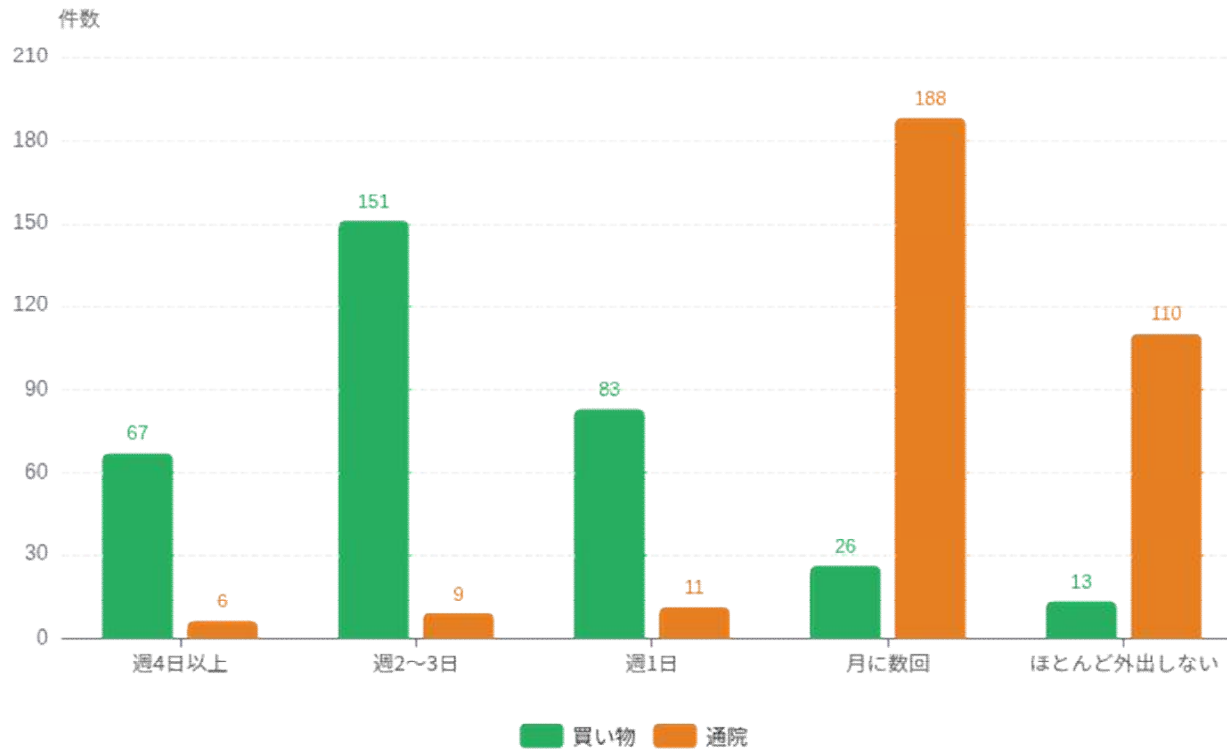
70代前半までは非常に高い保有率を維持しており、70~74歳での未保有・返納者は比較的少ない。

現役世代(20代~60代)は大多数が免許を保有しており、特に40代~60代にかけてはほぼ全員が保有している状況が見取れる。

外出頻度（目的別）

三間地区 住民アンケート結果（N=367）

目的別外出頻度比較（件）



🛒 買い物の外出頻度

週2回以上 **218** 件（約59%）

目的による頻度の違い

買い物は「週2~3日」が151件と最多。宇和島地区と比べると「週1日」の割合もやや高く、まとめ買い傾向が見られる。

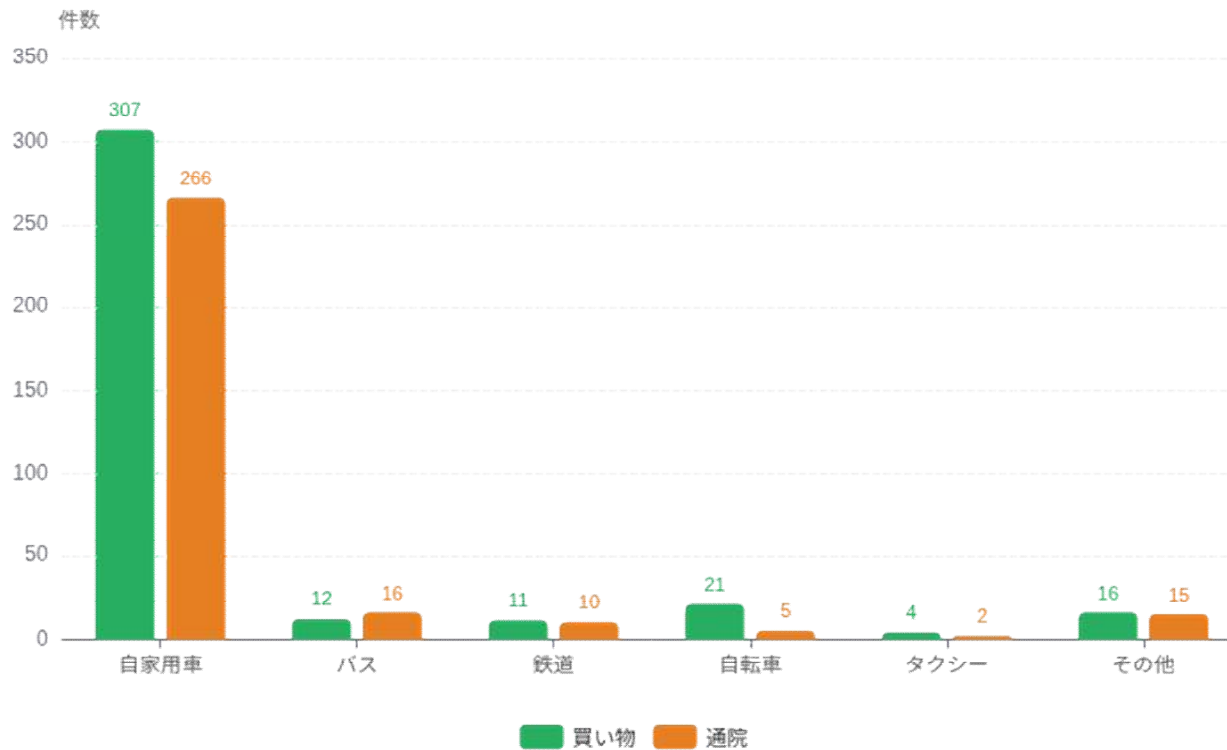
通院は「月に数回」が188件と過半数を占め、定期的な通院需要が顕著。

通院頻度が低い層（「ほとんど外出しない」）も110件と約3割存在し、健康な層と通院層が明確に分かれている。

移動手段

三間地区 住民アンケート結果 (N=367)

目的別移動手段比較 (件)



🚗 自家用車の利用割合 (買い物)

利用者数 **307** 件

買い物移動の約8割強を占め、依存度が極めて高い

移動手段の特徴

自家用車が買い物で307件、通院で266件と突出。他手段との差が著しく、生活に不可欠な状況が伺える。

自転車利用は21件と少なく、通院ではさらに5件まで減少。地形や距離の影響が考えられる。

公共交通 (バス・鉄道) は共に10件台と利用が低迷。通院でもバス利用は16件に留まっている。

外出目的×交通手段：自家用車依存の可視化

三間地区 住民アンケート結果 ※複数回答のため、各行の合計は回答者数（N）と一致しません

目的 \ 手段	自家用車	バス	タクシー	鉄道	自転車	その他
買い物	307	12	4	11	21	16
通院	266	16	2	10	5	15
通勤	85	3	1	8	13	5
趣味・娯楽	95	2	1	6	8	8
習い事	78	2	1	4	7	6
通学	18	5	0	12	9	2

※その他：家族送迎、徒歩などを含む

🔍 集計からの主な所見

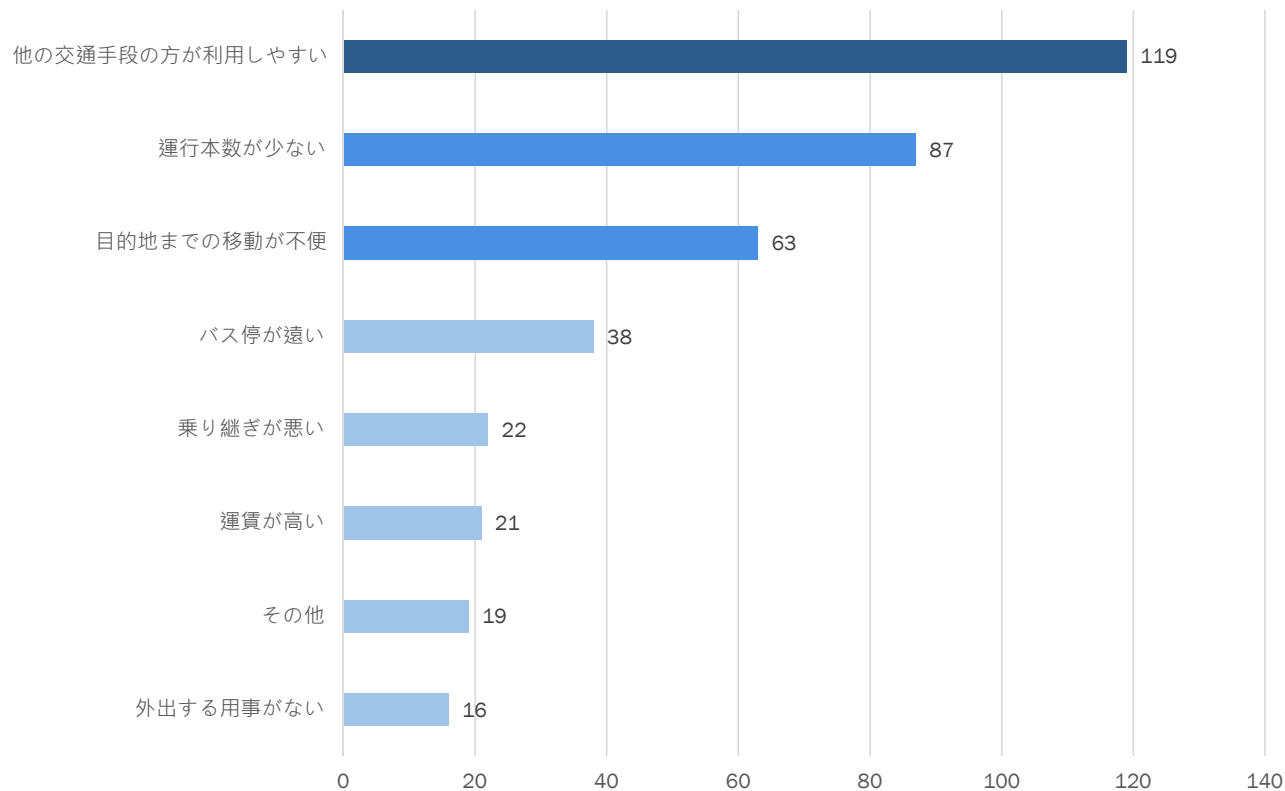
全目的において自家用車利用が圧倒的だが、**鉄道の利用**が他の地区に比べて目立ち、買い物・通院・趣味・習い事など多目的に活用されている。

バス利用は通院で一定数見られるものの、通学等では鉄道・自転車または鉄道選好の傾向がうかがえる。

バスを利用しない理由

三間地区 住民アンケート結果 (N=367)

バスを利用しない理由(回答件数)



最多理由

他の交通手段の方が利用しやすい **119** 件

自家用車への依存度が極めて高い地域特性

上位5理由 (件数)

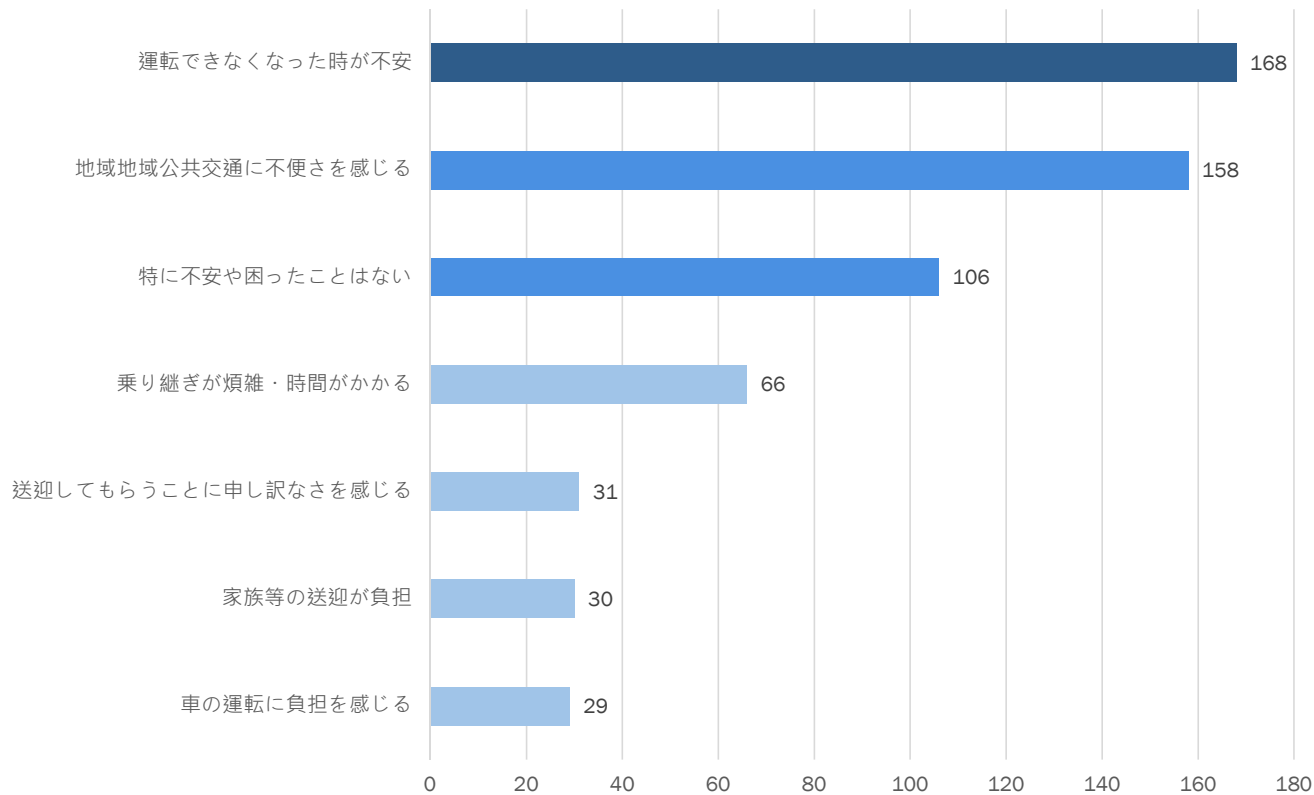
順位	理由	件数
1	他の交通手段の方が利用しやすい	119
2	運行本数が少ない	87
3	目的地までの移動が不便	63
4	バス停が遠い	38
5	乗り継ぎが悪い	22

「運行本数」「目的地への不便さ」「バス停距離」など、利便性の物理的な制約に関する回答が多く、既存路線網とニーズの乖離が示唆される。

外出の不安・困りごと

三間地区 住民アンケート結果 (N=367)

外出の不安・困りごと(回答件数)



🔴 最多回答

運転できなくなった時が不安 **168** 件

自家用車への依存度が特に高い地域特性を反映

上位5項目 (件数)

順位	回答内容	件数
1	運転できなくなった時が不安	168
2	地域公共交通に不便を感じる	158
3	特に不安や困ったことはない	106
4	乗り継ぎなどが煩雑・時間がかかる	66
5	送迎してもらうことに申し訳なさを感じる	31

🔴 「運転への不安」と「公共交通の不便さ」が上位を占め、将来的に移動手段が確保できなくなることへの危機感が強い傾向にある。

現地での声

👤 将来の不安

- 🗨️ 免許返納後はバスの利用を想定するが、本数が少なく不安
- 🗨️ バス停が遠く、本数も少ないので、高齢者や子育て世帯の自立移動が難しい
- 🗨️ 免許ない・市内に行くときは家族送迎が必要。バス停が近ければ1人で出かけたいたい
- 🗨️ 子供の登下校便が合わず、送迎負担が大きい

⚠️ 公共交通の不満

- 🗨️ 帰り便が少なく、1時間以上待つことがある
- 🗨️ バスを降りてから目的地までの距離が長く不便を感じる
- 🗨️ バス停が近づくなく、行きたい場所に直行できない
- 🗨️ タクシーは高額で、なかなか気軽には使えない

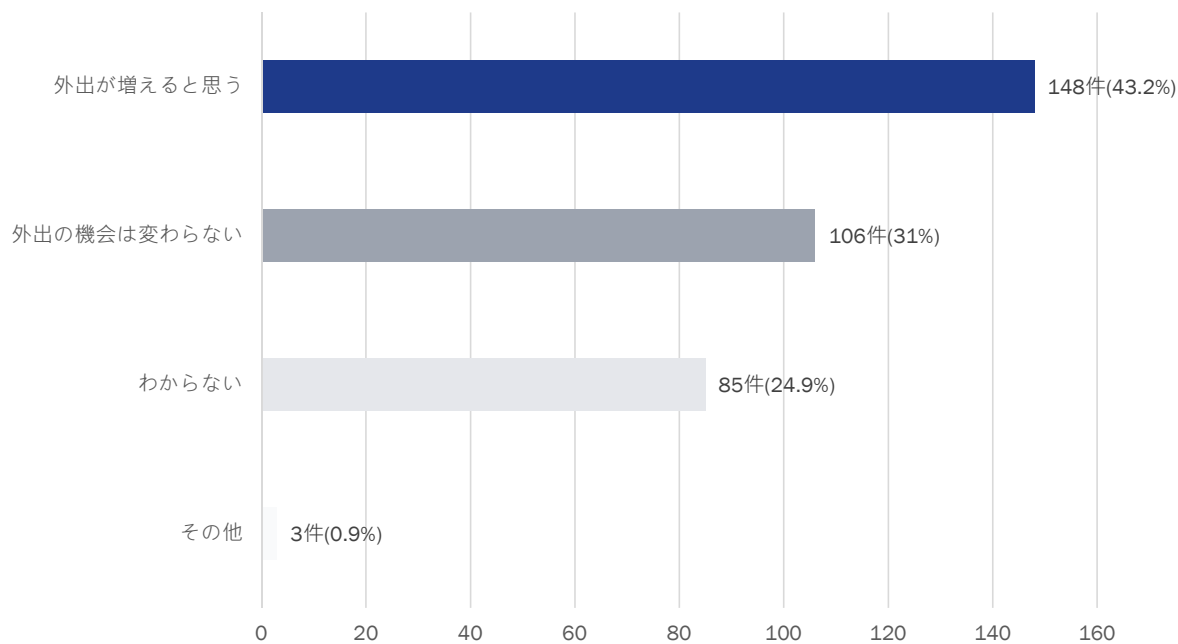
💡 改善要望

- 🗨️ バスの時間帯を夕方以降まで延長し、本数を増やしてほしい
- 🗨️ 生活拠点（スーパー・医療）に直行できるルート見直し
- 🗨️ 地域内を循環するコミュニティバスの新設・拡充
- 🗨️ バス停が遠いので、もっと近くまで来てほしい

外出の変化

三間地区 住民アンケート結果（※問25無回答除く）

問25「地域公共交通が便利になることでの外出機会の変化」回答分布



※「便利になれば外出が増えると思う」と回答した割合を中心に分析

4地区中最高 of 外出増加期待率

「外出が増えると思う」との回答は**43.2%**（148件）。4地区の中で最も高い割合を示しており、三間地区は公共交通の利便性向上が住民の行動変容に最も効果的に作用する可能性が高いエリアです。

高齢層での高い期待感

年代別に見ると、特に60～64歳層で**58.3%**と非常に高い期待が寄せられています。アクティブシニア層の外出促進に向けた公共交通整備が、地域の活性化につながる可能性を示唆しています。

免許保有状況・バス利用との関係

免許保有者（43.5%）と非保有者（42.0%）で期待度に差がなく、**幅広い層**が改善を望んでいます。また、週4日以上バス利用者では**50.0%**が外出増加を予想しており、既存利用者の満足度向上も重要です。

特徴：

三間地区は全地区で最もポジティブな反応を示しており、特に60代前半層や免許保有者も含めた広範な層へのアプローチが外出機会創出に有効です。